

唐蕃會盟碑文

寺本婉雅譯

目次

- (一) 唐蕃會盟碑文に就て
- (二) 唐蕃會盟碑文(正面藏文)
- (三) 唐蕃會盟碑文(右側藏文)
- (四) 唐蕃會盟碑文(正面和譯)
- (五) 唐蕃會盟碑文(右側和譯)
- (六) 同(正面漢文)
- (七) 同(正面漢文宰相名)
- (八) 同(右側漢文宰相名)

(一) 西藏拉薩の唐蕃會盟碑文和譯に就て

唐蕃會盟碑文は、支那唐代と西藏との關係を知ること、に就て重要な史料である。この碑文は『龍威秘書』中の『西藏記』や、『大清一統誌』、『衛藏通誌』等に載つてあれど、各書所載の漢文は孰れも區々として一定してゐないのみならず、西藏國王の名稱など重要な文が缺けてゐる所以は、一定の碑文によりて載録せなかつたことが判る。従つて是等所載の碑文に依つて唐蕃會盟の真相を把住する事は出來難いやうに思はれ、是れが爲めに東洋史學者が唐蕃關係の史實を見極めたい希望を懷きながら久しき年月の間、その真相を明かにすることが出來なかつた次第である。余は往年西藏探

樓の際、拉薩の都市に於て是の碑文に注意したことであるが、何分國籍を祕し、支那北京城内の雍和宮の掌印大喇嘛、阿嘉呼圖克圖 (Ajia-hutukutu) の弟子チメ、ノルブ (Drimed Nor-bu) 又の名ネルバ (Ner-ba) として西藏拉薩のセラ (Sera) 大學林内の阿嘉貫主の公館内に起伏したのである。當時蒙古喇嘛や、西藏學徒等は手帳、鉛筆を所持して日記を誌るし、スケッチなどするの習慣は全然皆無であり、況して寫眞機を携帯して史蹟、勝景を撮影するなどは夢にだも知らなかつたので、西藏は峻嚴なる塞國主義の時代であつたが爲めに、若し異國風の懸疑のあるもの若しくは外國と交通するものは、悉く斬殺の極刑に附せらるゝ國禁勵行の時代であつた。今日では英國の侵略的保護政策遂行の結果、英國の物質化が迅速にヒマラヤ山の奥陰に波及し、西藏人は急轉直下の勢にて歐化主義に傾きかけてゐるから、明治三十一年より同四十一年までの西藏國勢と現今とは殆ど隔世の感に打たれる程發展してゐる。

明治四十一年春余は達賴喇嘛 Tag-d-Bai-Tshub-Stan Rgya-mTsho を勧誘して青海の邊り安土地の塔爾寺ツンブンより山西省五臺山に巡拜せしめ、次で同年九月廿九日北京に入朝せしめた。こは基と達賴をして日本に觀光せしめ、日藏兩國の提携によりて東亞全域の保全と覺醒を謀り、日本國旗をヒマラヤ山峯に樹立せんとする意圖に由つたのであるが、時の英露の關係と、我外交上の失策とによりて余の多年の宿望を遂行することの出来なかつたとは誠に千歳遺憾の極みであつた。その際種々劃策

せしも當時日藏兩國間には未だ修交的條約締結のなかつたから、是等の交渉は對外的に顧みて公然の發表を避けた次第である。諸種契約の中で兩國の留學生の交換的派遣はその中の一であつた。

かくて達賴は日本觀光の不可能なる事情を慮りて北京駐錫の無意義を感じ、倉皇として北京を去りて還藏した。この時藏支國交の切迫問題に對策せん爲め、對英接近の必要を感じ、還藏間もなく印度に出で、世人を驚かしたのは明治四十三年の春であつた。達賴の五臺山駐錫のせつ余は大谷光瑞氏の依頼により明治四十一年八月三日大谷尊由氏を紹介して達賴に謁見せしめた。この因縁によりて後ち光瑞氏は達賴の選定派遣したる西藏貴族の一秀才と從僕の共三名を神戸六甲山の別邸に於て養成せられ、留學生の還藏と同道して青木、多田兩君は入藏することゝなつたのである。蓋し日藏兩國の親交が祕密の公然に往來さるゝに至つたのは、その裏面に於てかうした多年の辛酸と努力との結果に由るものであつて、當時の擔任者たる余と、時の外相小村侯、大隈侯、福島將軍等の外にはその真相を知るものはなからう。今この唐蕃會盟碑文の研究の一篇を發表するに就ても、是等の内情は全く無關係のものでないと思ふから、煩冗をも顧みず、これを叙することゝした。

兎に角余は入藏の際、拉薩市の大招寺 (Jo-Chen-dGon-pa) の門前に一基の碑の立てるを視たのである。高さ五呎、厚さ六吋、三方は石と煉磚にて外廓を積包し、頂部は支那の碧瓦を以て葺き、アチ形にて造り、額面には深彫の二個の金翅鳥ガレキあり。碑の後方一間程を隔て、石堀あり。堀内より

鬱蒼たる古株の祿柳は枝葉を垂れて碑頭を掩ひ、盛夏尙涼味を感ず。碑は幾星霜の風雨に晒され、原形の花崗岩は腐融して石質の何たるを判し難い程である。碑の全面に亘りて椀形の凹状を呈し、刻字は剝滅して判讀に由ない。藏人の談によれば、痘瘡防止豫告の勅令であることより、後には藏民が此刻文を石を以て打て小穴を穿てば痘瘡の流行を撲滅せしむべしとの迷信による痕跡である。

昔、唐太宗の文成公主が吐蕃スロンツアンガンホ王に降嫁せし後、痘病流行し、公主は胸を痘瘡(hBrum)を患ひて薨去し、諸方に流行せしかば、こは昔より吐蕃國にはかゝる痘病の發せしことはなかつたが、今南方ネパール國より諸比丘の漂逃して來藏せしに由つて、かゝる病疫を起せしものなりとて、諸大臣は國王に上奏し遂に諸法師を國外に放逐せりとの記事あり(拙著『千闍國史』參照)。これに依つて痘疫は南方ネパール國より傳播して來たものであることが判る。現在の達賴喇嘛第十三世トウブダン、チャムン (Thub-bStan Rgya-mTsho) もまた此痘病にかゝつた痘痕を顔面に殘してゐる。今この碑銘の全文は磨滅して讀み難きも、恐らく斯る痘瘡病流行の防止豫告の勅令文を刻したものであり、それが爲めに今以て碑文に凹穴を穿つたのであらう。

二十餘年前 Sarat Candradas 氏の入藏のときは、碑文は尙判讀し得たと言はれてゐれど、余が入藏して親しく目撃せしときは、既に殆ど全文は磨滅して讀むことが出来なかつたが、能く凝視せしに、向つて右方は漢文であり、その左方は藏文であつて、僅かに右方の漢文數字をノートに記入し

得たのであつた。今當時のノートを檢するに左の如き漢字が書き殘されてゐる。

「唐古忒、五印度之一族」云々。

若しチャンドラダス氏入藏のせつに、向碑文は判讀し得たとなれば、この碑文は唐代の唐蕃會盟碑にあらざるものであらうとの疑を消すことは出来なかつたのである。唐蕃同盟碑は恐らく此の大招寺門前の祿柳に掩はれてゐる碑文でないことは、上記の如き刻文を手記し得たことゝに依て確認せられたのであるが、何處にか隠くされてゐるのではあるまいかと云ふ懷疑心に支へながらも、未だその眞碑を發見することの出来なかつたことを非常に遺憾に思ふたのである。

明治四十一年余は達賴喇嘛を日本に觀光せしめん目企の爲めに、先づ青海より支那の五臺山を経て北京城に案内し、達賴喇嘛の直接の弟子となり、達賴より特に自己の名の頭冠を附したる法名 *Thub-bstan bZod-pa* てふ名稱を授與され、達賴の顧問に任せられたのであるが、當時この唐蕃會盟碑の所在を尋ねたところ、大招寺の正門前の石堀内に立てる石柱高約二間程のものが即ちそれである由を告げられた。

其後この事に就て余は河口慧海氏に此會盟碑の所在地を照會したところ、氏は左記の通り大正五年六月二十一日附出の「ハガキ」を以て古株柳蔭のアーチ形の痘痕碑のスケッチと、碑の概略とを書いて送つて下さつたのである。

「御尋ねの支藏同盟最古の碑文、卽唐代孝德皇帝、對西藏國王黎贊との同盟協約の碑文の現に存在するところは、羅薩市チョーカン、釋迦牟尼佛殿の正門、卽ち西門の前庭内にして、チョ、カン正門に向つて少しく左手に長サ南北凡そ三間、東西凡二間の長方形の石垣内一段高き平壇あり、内に古大木の柳あり、其下に高さ一丈に餘る碑あり、藏人は是を呼んで Rdo-Rin と云ふ。是れ卽ち支藏同盟の文を刻せるものなるが、其の文表はれず、碑一面に茶碗の凹みの如き大さに穿ちたる者多くありて、其文を見るに由なし。察するに向つては漢文にして、左は藏文なりしかと思はる。建つる時は餘程丁重にせし者ならん、この半月形の中には金翅鳥と天人の彫刻あり」。

氏は古柳蔭下の痘痕形の碑を以て唐蕃會盟碑なりと確信して居られるやうであるが、それは全然誤謬であることは余の實讀したる上記の該碑の銘文に照應しても明瞭である。この磨滅したる痘痕形の碑を以て唐蕃會盟碑なりと誤認せるものは氏のみではなく、ブッセル氏の如き同様の誤認により漢文の碑銘を譯出して論じてゐる (The Royal Asiatic Society's Journal. Vol. II. N. S. by Dr. Bushell)

この唐蕃會盟碑の拓本は内藤湖南博士の所藏である。その拓本に二種あり、一は清朝乾隆時代の

作摺^(百六十七年前)、二は同治年代の作摺^(百五十十年前)である。四面揃の拓本は同時時代の作摺にして、支那の「寶左璽氏」の所藏なりしが、明治三十五年に博士の入手せられたるものなりと云ふ。

余は湖南博士の依囑により、之を和譯し、藏漢和三體合璧を作りて博士に呈出した。博士は大正七年四月春中旬、東京帝國大學の史學會に於てこの和譯文に基づき碑文の考證を發表せられ、次でこの拓本寫眞摺二枚、外に漢文摺一枚を博士より惠存に預つた次第である。博士は當時の講演の筆記を『研究小録』中に編入して出版せられた。併しこの書中には碑の原文と、和譯との對照文、或は碑文より直接檢出したる會盟の漢文、並びに會盟に關係せし蕃國の諸臣の姓名等を掲載せられてゐないのは、原文研究上誠に遺憾である。仍て余は大正五年夏、碑の拓本より譯出せし際のノート原稿を底本とし、更に再譯し、藏漢和三體合璧を作りて茲に發表することゝした。拓本は長サ二間餘、幅約一間程あれど、全刻文は一千餘年の風雨に晒され、殆ど磨滅して讀むに堪へないで、虫眼鏡に照らして漸く判讀したに過ぎない。この拓本二枚を譯出するに一ヶ月餘の時日を消費したことは、如何に碑銘が難解であつたかを證するものである。

碑の和譯と碑面の漢文とを以て諸種の漢誌中に載せられてゐるものと對照するとき、漢文の粗漏であり、任意の竄入せるところの甚だ尠なからぬものゝ存するを見るであらう。

最近チャーレス、ベル氏は唐蕃會盟碑文を英譯して出版されてゐるが、その碑の所在地に就ては

矢張り大招寺正門前の柳蔭下の碑なりと指定して「石壁と屋壁との背後に立てる四面の一本、碑の高サ約四十フィートあり、二本の柳樹はその上を掩へり」云々と記述してゐる。この記述中、碑の高寛の尺度は長慶年間の會盟碑を示せるも、柳蔭云々の記述は正しく痘痕形の碑を以て唐代長慶年間に唐蕃會盟碑なりと誤認してゐることは、餘の歐洲の東洋學者と同一である。(Tibet past and Present, by Sir Charles Bell. 1924. 參照) 併しチャールズ氏の底本となつた拓本は正しく唐蕃會盟碑のものであつて、是れは湖南博士所藏の拓本と同一のものであつたことが推測せられる。氏の譯文と余の和譯とを對照するに、その文意は一致するも、就中氏の The king of miracles T'ide-Tsen and the Chinese king Bun-pu He-u-Tig Hwang-Te とあるは、碑の原文に照應するに、これは K'hi-^チIdé-b-Tsan……Dün-Bü He-Cu Tig-Hwan-Te (文武孝德皇帝) の誤寫であらう。

又彼此交換の驛馬を Chang-Kün-Yok (地) に於て換ふべしと譯せるものは、いへ「Chang(將) — Kün(軍) の Yok (下馬) に於ける馬匹の交換は「綏戒」の柵(關所)に於てす」との誤譯である。碑面の漢文に「蕃漢受於將軍谷交馬其綏戎柵」とあるに對應すべきである。

博士所藏のこの拓本は『龍威秘書』第十一の四の『西藏記』上卷四十一丁右の文、

「門外有唐蕃和盟碑、高約一丈五尺、寛約四尺、厚約二尺、兩旁刊有大臣、太宰、尙書、等字跡、并牛僧儒姓名、但年遠、模糊不能悉讀、僅錄其略、載于後編、碑旁有唐植古柳二株

老幹、盤屈、若龍呼然」。

とある文と其長寛等の尺度、牛僧儒等の臣名の字跡あるものと一致するを見る。

拓文の原文と諸書誌等に編入されてゐる唐蕃會盟碑の漢文(正面)とを對照するに、諸書誌の漢文は、最初の贅頭に、大唐文武孝德皇帝と記し、次で大蕃神聖贊普の王名を記して、唐朝の國威を示してゐるが、大蕃國の原文には、最初「蕃の大王化現の神なる贊普」と言へる王名を記し、次で「支那の大王、支那の君主皇帝」云々として、大蕃國の國威を掲げてゐる。かうしたる締盟國の條文は、彼此相互に自國の國名と王名とを最初に併記することが慣例となつてゐるものと考へらるかなれど仔細に碑の原文を占檢するに、藏文の旨趣を主とし、漢文は藏文に準して譯出したことが明瞭に認めらる。従つて西藏の勢力は唐朝の國力よりは優勢であつたことを雄辯に物語つてゐる。

正面碑文に存する大盟諸宰相の姓名と職務とは、何等の理解と注意を拂はずに、只大蕃の文字の發音のまゝを漢字に當籤めて音譯したものである。是に依て當時の大唐の會盟委員は大蕃の文字に聞きのみならず、大蕃の作製したる會盟條約文のまゝを漢文に譯出したことが分ると思ふ。併しこの會盟碑の音譯漢文に依て唐時代に於ける支那の音韻學史上に多大の根據を與へる恰好の史料であることを注意すべきである。(口繪は「西藏遊記」青木氏著に據る)。

この唐蕃會盟碑文の和譯を發表するを得たのは、これ全く湖南博士より同拓本研究依頼の賜物である。茲に博士に對して深厚の謝意を表す。(昭和四年七月十七日、寺本繁雅謹)

(二) 唐蕃會盟碑文

(正面藏文)

|| Bod-Chen-po hTsan-po Cha-Pra mjal
藏 大 贊 普 大 小 會

Dun-gyi gCig-hDsin-ba-la gTogs
盟 ノ 同 持 者 = 關スル

pahi Thabs Dai Myin-Rus-la
ニトノ 方法 ト 名 姓 = 於テ

大 相 好 立 寮
 蕃 等 登 盟 名
 宰 和 壇 官 位

Bod Chen-po'i Chab-Srid-kyi Blon-po
蕃 大 ノ 社 稷 ノ 臣

...la-gTogs-pahi Thabs-dai Myin-Rus
= 關スル ニトノ 方法 ト 名 姓

大 宰 同 章 名
 蕃 相 平 事 位

|| Bod-gyi Rgyal-po Chen-po
蕃 ノ 王 大

hPhrul-gyi Lha bTsan-po Dai
化現 ノ 神 贊 普 ト

Rgyahi Rgyal-po Chen-po Rgya-Rie Hwan-Te
支那ノ 王 大 支那 君 皇 帝

dBon-Shan gÑis Chab-Srid
甥 舅 二(主)ハ 社 稷

gCig-du gSol-Nas mjal-Dam
一(盟)ヲ 願ヒ テ 會 盟ヲ

Chen-po mDad-de gCig-hCas
大ナル 作リテ 同 共

pa | | Nam Slar-Yai Myi-hGyur Shig.
ツ 決シテ 再ビ 復 ガレ 變ゼ ヲ

Lha Myi kun.....Cin dBai-Byas
神 人 一切 支配 セラレ

(第一行) (第二行) (第三行) (第四行) (第五行) (第六行)

約安每蕃文大

儻如須漢武唐

不斯通二孝文

依樂傳國德武

此業彼所皇孝

誓之此○帝德

蕃○○○與皇

漢○○○○帝

bKān Chen-po-la gTogs-te Phyi-Blon
 命令 大 = 關シテ 外(務大)臣ハ
 Sa-la dBaṅ-Shin Chab-Srid hDsin
 地ヲ支配 シテ 社 稷ヲ 持スル
dPal-Chen-po Yod.....
 才能 大ナルアリ

平 章
 Go-mChog.....Go.....Gos.....

相 同
 Blon-Chen-po Bo.....Blon.....
 臣 大 臣

章 事

副 元 十

唐書會開補文

te Tshe-Tshe.....su bRiod
 シテ 代 代 = 於テ 稱讃
 du-Yod-pahi.....
 アルコトノ

gyi-mDo Rdo-Rin.....
 ノ 商議ヲ 神

hPhrul-gyi(Lha-bTsan-po-Khur'i)
 化 現 ノ 神 贊 普 護

Lde-bTsan-gyi.....
 德 贊 ノ

Būn-Bū Sheu-te.....
 文 武 孝 德

Shan-gNis.....
 勇 三(主)

Ni..... | |gyi-Legs
 ハ 善

Nes-Ci Thugs-Rje-Chen
 惡モ 如阿ナル 慈 悲 大ナル

Pos-ni dKah-Drin-gyis dGab-pa-la
 = 由テハ 親 切 ラ以テ 施フコト ハ

Phyi-Nan Med-pas Mañ-po Kun bDe
 外 内 ナキ 故 = 多(者)ヲ 全テ 安

Skyid-par Bya-ba-la-ni dGons-pa gCig
 養 = セラルハニ於テハ 考 ラ 一ニシ

Yun-Rin-por Legs-pahi Don Chen-po
 永 久 = 善 ノ 義 大

〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇

〇〇蕃興〇〇

也於漢矣〇〇

仍日受己二〇

須月於西聖舅

難所將盡舅甥

〇照軍是甥二

la-ni bKah-gyis mThun-te | gCig(?)
= 於テハ命令ニ由テ 相應シテ 同(盟ヲ)

Rtsis-pahi Shu Myin Sa Chen
商量スルコトノ願ハ 名 地 大

dGyes pahi Cha-(Srid?) bRsegs-par
喜ビ ノ 社 稷ヲ 立ツベシ

Mol-nas mjal-Dum Rgya-Chen-pohi
謀合ニ由テ 會 盟ヲ 支那 大 ノ

mDsad-de. Bod-Rgya gNis Da-Ltar
作シテ 蕃 支那 =ハ 今

Su(?) mNah-bahi Yul dan mThams Sruu
誰ニ 所有 ノ 國 ト 境ヲ 守リ

Shin Delhi-Gar-Phyogs Thams-Cad-Ni
ソノ 貢 方 一 切ハ

Rgya Chen-pohi Yul Nub-Phyogs Tham-
支那 大 ノ 國 西 方 一

Cad-ni yai-Dag-bar Bod Chen-pohi
切ハ 正 = 蕃 大 ノ

Yul-te, Delhi Sa Phan-Tshun dGrar Myi
國ニシテ ソノ 地ヲ 相 互ニ 敵トシテ 不

hTthab. dMag-Myi-Dran. Yul-Myi
譯ハ 兵ヲ 不 導カ 國ヲ 不

mRnam. Yid Ma-Ches-pa-Shig Yod
侵略セ 意ニ 不 信 ノコト 有ル

la-ni bKah-gyis mThun-te | gCig(?)
= 於テハ命令ニ由テ 相應シテ 同(盟ヲ)

Chab-Srid-kyi Blon-po Chen-po Shan-Khri
社 稷 ノ 臣 大 シヤソ(地)椅子
bTsan-Si bSher
ツァン シ セル 平 論 世
相 章 沾 熱
同 事 贊 贊
Chab-Srid-kyi Blon-po Chen-po Shan-Khri
社 稷 ノ 臣 大 シヤソ(地)椅子
bTsan khon-Ne Strai
ツァン コン ネ タン 平 尚 贊
相 章 綺 窟
同 事 立 立 寧
Chab-Srid-kyi Blon-po Chen-po Shan-Khri
社 稷 ノ 臣 大 シヤソ チ
bSher Lha-mThoi
セメル ハ トン 平 尚 熱
相 章 綺 立 通
同 事 立 含

及矣谷大藩主
爲蕃交蕃哲商
陰於馬境鴻議
謀蕃其土彼社
者國綏彼曉援
不受戒此今如
在安柵不永一
破漢已爲之結
盟亦東寇屯立
之漢大敵亨大
限國唐不殆和
受祗舉盛盟
樂應兵之約

na Myi-bZuñ gTam-Dris-te
トエ 不 捕 語ヲ 試ツテ

bRdsais-nas Phyr bTai-Ño.
放 チ テ 後チ 給與ス

Da Chab-Srid gCig-Cin mJal
今 社 稷ヲ 同(盟)ツテ 會

Dum Chen-qo hDi-Ltal mDsad-pas
盟ヲ 大 是ノ如ク 作スニ由テ

dBon-Shan dGes-pahi Bkabh-Phrin De
甥 舅ノ妻ニルコトノ 命 令ヲ コノ

Šnan-pas Ikyan hDul-dGos-te.
聞クコトニ由テ 尚 調整ヲ 要ツテ

Phan-Tshun-gyi Pho-Ña hDon-ba Yan
相 互 ノ 使 節 派 遣モ ヲタ

Lam-Rin-par Byun-nas Šia Lugs bShin
路 遣 ヲ 在ズルバ 以前ノ習慣ニ 從フベシ

Bod Regia gÑis-kyi-Bar Tsan-kun
蕃 支那 三(國)ノ間ニ於テ 將 軍

Yog-du Rta-bRjas-la Stse-Shun-Chig-du
下ニ於ケル 馬 交換 ハ 緩 戎 柵ニ於テ

Rgya Dab-Phrad-pa Man-Cad-ni Regyas Phu-dud
支那 ト 接 スル 以 下ハ 支那ニ由テ供給

Bya. Tseñ Gu-Hywan-du Bod Dab-Phrad-pa
セラレ 清 水 縣 ニテ 蕃 ト 接スル

Chab-Srid-kyi, Blon-po Chen-po Blon-
社 稷 ノ 臣 大

Rgyal bZan hDus-Kon
ヂヤル ザン デー コン

宰 平 論 筭 恭

相 章 類 悉

同 事 藏

Bod Chen-pohi Blon-po phal-gyi
蕃 大 ノ 臣 一般ノ

Thabs dan Myin-Rus
方法 ト 名 姓

大 語 衆 壇 名
蕃 察 登 者 位

Nai Blon mChims Shan Rgyal bSher
丙(務) 臣 チム シヤン ザヤル ェル

Khon-Ne bTsan
コン ネ ツァン

囊 深 類 篇 費
論 尙 熟 寧

茲情草情永

蕃乃水不〇無

漢合縣相〇渝

君其已侵〇替

臣大酉謀恩神

並業大封覆人

稽耳蕃境其俱

告依供〇無以

立此應或內證

誓盟須有外知

周誓合猜商世

細永〇阻議世

爲久〇提叶代

Phyi-Blon bKaḥ-la gTogs-pa Cog-Ro
外(務)臣 命令 = 關スル (地名)

Blon-bTsan bSer Lha-Goi.
ロン ツァン セル ハ フン

班 羅 屬 贊 公

論 薦 盧 熱 哈

仰 波 論 哈

...phyi-pa mChims-Shan bKtan-bSher Stag
外 チム シヤン ダン セル タク

悉 波 且 諸 匣

班 璦 熱 匣

mNah-bPon Khams Ho-Chog-gi Bla
屬地ノ 吏 (州地) (地名) ノ 喇嘛

Pion-kru bZai Myin-ma.
臣 龍 菩 名

岸 蘇 渤 論 藏 名 摩

奔 戶 羅 矩 立

檣 屬 未 立 摩

bKaḥi Phrin Blon-Chen Ka-Blon
祕 書官 臣 大 カ ロン

Stag bSher Han-kyen.
タク セル ハン ツェン

Yan-Cad-ni Bod-kyis Phu-Dud Bya-Stc.
以 上 ハ 蕃 = 依テ 供 給 セラレテ

得舅問務使

dBon-Shan Ōe-Shin gNen-bahi Tshul-bShin
甥 舅ハ 近 ツキ 親ソコトノ 方法 = 從ヒ

du Sri-Shu Dan bKkur-Sti-bahi Tugs
テ 注 意 ト 尊 敬 ノ 慣習

易親訖萬爾

Yod-par-Sbyar-te, Yul gŌis-kyi
有ルベシ 聯結シテ 國

二然近給姪讀

Bar-na Dud-pa Myi-Snan Blo-bur-du
間 = ハ 煙 ラ ズ 現ハサ 不 意 = 於ケル

君三之以安是

Snan-ba Dan dGrahi Myin-ni Myi-Grag-te
出來事 ト 寇 ノ 名 ラ ズ 聞カ

之寶禮衣泰以

Srid mTshams Sruin-pahi Phiyir Yan-Cad
國 境 ラ 守ルコトノ 爲メ = 以 上モ

合及使嶽所盟

Kyan Dogs-Cin hJigs-Pa Myed par
亦 驚恐 ト 怖 畏 ナカラシメ

證諸其放思文

Sa-lam Bag-la-na bRkyan-Stc.
地 路 防 備 ラ 撤 シテ

以賢兩師如節

bDe-bar hKhor-Cin Skyid-pahi bKaḥ-Drin
安穩 = 轉ジツ、幸 福 ノ 意

雍聖界 一目

Ni Rab-du Khiri Bar-dur-Thog Sñan-pahi
ハ 能 ク 萬(代)ノ 間 ヲデ 生ジ 輝キ ノ

印日煙今成題

Sgra-Sñan Ni-Zlas Slebs Chog-du
名 聲 ハ 日月 = 依テ達セラレ 充分 =

登月塵社久之

給 物 論 熱
 事 悉 春
 中 迎 諾 乾
 Rtsis-pa Chen-po..... Blon-Stag
 會 計 大 ロン タク
 Zigs Rgyan.
 デク ダヤン
 資 將 論 日
 悉 道 悉 馴
 波 額 諾 寇

Phyi Blon hThogs klu bzai
 外(務)臣 トク ル サン
 Stag-po bLsan
 タク ッサン
 玳 ○ 他
 論 篤 勤 謀
 波 賦 藏 費

Khyab-Ste. Bod Bod-Tul-na Skyid.
 掩ハレテ 西藏ハ 蕃 國ニ於テ 幸諾ニ
 Rgya Rgya-Yul-na Skyid-pahi Srid Chen-po
 支那ハ 支那 國ニ於テ 幸諾 ノ 國ト 大
 Shyar-nas gCig-b-Cas-ba hDi-Riin
 締結シテ 同(盟)ヲ共ニス 此 間ハ
 壇皇不稷遠於
 之辰揚叶大柱
 臣請罔同善也
 親爲聞如再
 署知寇一續
 姓證盜爲慈

Dam-par Myi-hGyur-bar dKon-mChog
 確カニ ス 變 ゼ 賢
 gSum Dan hPhags-pahi Rnams Dan
 三 ト 聖 諸 ト
 Ni-Zla Dan kirma Yaii Baii-du
 日 月 ト 星辰ニ 又 カ ラ
 名如之此親

gSol-te. mChog-gi Rnam Thabs-pas Kyaii
 諸ヒテ 最上ノ 種々 方法ヲ以テ 尙
 bCad. Srog-Chags bSad-de mNah
 啓シ 往 ラ 殺シテ 約誓ヲ
 Yaii Bor-Nas gCigs-bCos-so.
 又 取ルコセニヨリテ 同(盟)ヲ共ニス
 如約無然重
 斯各驚 申
 誓自恐 隣

as Sdig-Cin, Lan-du dKu-Sto Ci-Byas Kyaii
 由テ 苦シミ 歷 謀計ヲ如何ニ作サルトモ尙
 交契之 好

.....Shal-Chen-po
監査 大

gCigs-pa bCigs-la ma-gTogs-so.
一 (度) 破ラバ 除カルナリ

載陳患男之

.....Chen Lag bTsan.
臣 大 ラク ツアソ

hDi-lar Bod-Rgya gNis-kyi Rje dPon-Gyis Shal
是ノ如ク 審 変耶 ニノ 君 臣 = 依テ 稽告

於刑行甥義

○ 浩

gyi hPhags mNah Bor-te, gCigs
ノ 神聖ナル 誓ヲ 取リテ 同(盟)

王性人相爲

kyi Yi-Ge Shih-Mor Brit-Nas
ノ 交ヲ 納銀 = 記スルコト = ヨリテ

府爲散好此

gNis-kyi-ni Phrag-Rgyas bJab Bion-po
三(君)ノハ 印 璽ヲ 捺セリ (大) 臣

焉盟備之大

gCigs hDsin-pa-la gTogs-pa Rnams
同(盟)ヲ 持スル = 關スル 諸

設卿義和

kyi-ni Lag Yig-tu Briste, gCigs-kyi
ノハ 手 字ヲ 署シテ 同(盟)ノ

此士善矣

Yi-Ger dKod-pahi Phrag-Sisal-du bShogs-So.
交ヲ 施テ 敬 禮 = 鐫刻セリ

大俱理今

(終)

(三) 唐蕃會盟碑文

(右側藏文)

(大正五年七月七日譯了, 寺本婉雅記)

(1) / Rgya Chen-poin Bion-po Ci:..... (1) hPhrul-gyi Lha-bTsan-po Khri-gTsug Lde-bTsan
支那 大 ノ 臣 如何 = 化現 ノ 神 發 誓 護 筑 德 贊

mjal-Dum
會盟

- (2) 大 ○ ○ ○ gCog
唐 ○ ○ ○ ○

- (3)

- (4)

- (5) gTogs-paḥi
關スルコトノ

- (6) 大 宰 ○ ○ ○
唐 相 ○ ○ ○

- (7)

- (8)

Dai, Rgya-Rie Bān-Bā He-Cu
ト 交那君 文武 孝

- (2) Tig-Hwan-Te g'Nis Chal-Scrid gCig-du MoI-te
德 皇 帝 二(君) 社 稷ノ 一ヲ 商議シテ
mjal-Dum mDsad-paḥi
會盟ヲ 作スコトノ

- (3)g'Nis-kyi Tshul Ci-ḥDra-ba Dai, mjal-Dum
二(主)ノ 方法ハ 如何ナル應度 ヲ以テ 會盟ヲ
mDsad-paḥi
作セシコトノ

- (4)pa Rdo-Riṅs-la Bīs-paḥo
碑 = 記 セリ

- (5) ḥPhrul(gyi-Lha) bTsan-Poḥi Lde-Spur Rgyal-
化 現 ノ 神 贊 普ハ 西藏古代國名 王
(Saḥ)-la Byuḥ.....
地 二 起リ

- (6) | Bod-kyi Rgyal-po Chen-po mDsad-pa
蕃 ノ 王 ト 大 テレリ
Yaḥ, g'Nis
又 二

- (7)paḥi-ni dBus Chu-bo Chen-poḥi-ni nGo, Yul-
ノ ハ 衛州 河 大 ノ ハ 源頭 國
mTho-Sa.....
商 地

- (8) Yi-Dam-gyi Lhas-Las, Myiḥi Rgyal-por gCegs-
上樂(神) ノ 神 = ヌリテ 人ノ 王 = ヌテ 行(化)

(9) 正 ○ ○ ○
議 ○ ○ ○

(10) ○ ○ ○
書 ○ ○

(11)

(12) / De-Bu Shi-Shu
bKah Chen-po-la gTogs.....
命 次 = 關係ス

(13) 中 夫 ○ 侍 ○ ○
○ 中 ○ 郎 ○ ○

(14) ○ 書 ○ 同 ○

te, gTsug-lag(?)
テ 伽 藍
(9)Srid-bTsugs. | Chos-ikhrims bZais-pos-
國ヲ 建設シ 法 律ヲ 審キ 以テ
ni.

(10)bKah-Drin-gyis-ni Nan-gi-Chos Spyi-
恩 恵 = 由テ ハ 内 ノ 法ヲ 一般ニ
Dar,
宣布シ

(11)gTul-te, Chab-Srid-ni Phyrir
征伏シテ 社 稷ハ 爲メニ
Shin-Che
國 大

(12)ni Šar(?) Shañ bTsun-par(?)Myi-
hGyur
變ゼ

(13)pañi gYun-Druñ-gi Rgyar-po Chen-po.....
ノ ヌンチヌン(地)ノ 王 大
Deñi-phyir Lho-Phyogs
ヌノ 故 = 南 方

(14) gyi.....Rgya-Gar Dan, Nub-Phyogs....., Byañ-
ノ 印 度 ト 南 方 北
Phyos-kyi Druñ
方 ノ 附近

(15) / Tah-Chun Dah-Pu Shan-Shu ...
pa bKaḥ-Chen-po-la gTogs.....pha.

(19) 太 夫 侍 ○ ○ ○ ○
中 中 郎 ○ ○ ○ ○
大 書 同 ○ ○ ○ ○

(17)

(18) / Chun Dah-pu Shih-shan-Ḥu
Ho-po Yod-par bKaḥ-Chen-po-la
gTogs.
關 大 命 大

(19) 中 書 侍 ○
太 戶 郎 ○
夫 部 同 章

(20)

(21)

通譯會同譯本

(15) Spel-la-bSesags / gYun-Druñ Rgyal-po Sde-ma...
勢 ㄣ 堆積シ エン チ エン 王 ㄣ ㄣ

.....Kun-gyis
ㄣ = 由ㄣ

(16) Phrul-gys Lha-bTsan-po.....bTsan-po Dai...
化現 ノ 神 贊 普 贊 普 ト

(17)Myi-Gus-pa Myed-De, Phan-Tsum dGyes-Ḥin.
ズザル 敬セ ナシ 相 互 = 喜セ ラ

Stsal Chos
令 法ㄣ

(18) Ṃan-pa-Yin Ḥar-Phyogs Rgya-ñDug-pa // mTsho-
聞ㄣ ナリ 東 方 = 亥 那 ラ リ 海

Chen.....
大

(19) Ḥar-pa Logs-kyi Rgyal-Po-Ste, I ho-Bar gShan.
東 方 王 南 = 至ル 他(國)

Dai Myi-ñPhrag
ㄣ ズ 猜ㄣ

(20) Chos-bZai, gTsug-Lag bRtams-pas Bod Dai.
法 善 伽藍ㄣ 造ルコト = 由ㄣ 蕃 ㄣ

Yan ñThab-kyi Zlog
又 戰 ㄣ 退ㄣ

(21) Kyi.....Ste, Dan-po Rgya-Rje-la Rgyal-Sar
ノ 最初 支那 若 = 於ケル 王 地 =

(22) / Jon-Gi Dahi-pu Pei-Bo Shan-Shu
Shahu Yod bKaḥ-Chen-po-la gTogs-
pa.

(23) 正 太 兵 衛 藩
議 夫 部 書 (範)

(24)

(25) / Rgya Chen-pohi Blon-po Rhal-gyi
支那 犬 ノ 臣 一般ノ

Thabs Dai Myin-Ru
方法 ト 各 姓

(26) 大 諸 衆 壇 名
唐 察 登 者 位

(27)

Shugs-nas, Dehi Tai-gi Srid
スリシ故= カノ 唐ノ 領土ヲ

(22) Rtsa gSum-lan Rgyal-Rabs gCig-gi Hog-du
三 度 王 統 一ノ 下 =

hPhrul-gyi Lha
化 現ノ 神

(23) Sron-bTsan Sgam-po dai Rgya-Rje Theho-Tsön
薩隆 贊 幹 誓 ト 支那 君 太 宗

Bün-Bü-Cen Hwan-te
文 武 神(?) 皇帝

(24) gÑis(-La?) gCig-du Mol-nas, Cen-Kwan-gyi-
二(主)ハ 一 = 商議スルコト = 由ラ 貞 觀ノ

Lo-la, Mun-Cen-Kon-Co
年 = 文 成 公 主

(25) Rgyal-pohi Khab-du Blans. / Phyi hPhrul-gyi
王 ノ 宮殿 = 迎ヘタリ 後チ 化 現ノ

Lha bTsan-po Khri-Idé
神 贊 誓 養 德

(26) bTsan Dañ. Rgya-Rje Sen-Lañ Khehe-hGwan
贊 ト 支那 君ハ 愚慮シテ 開 元 =

Çen-Bün Çin-Bü Hwan-te
聖 文 神 武 皇 帝

(27)Dai gCig-du mol-te, gñen-bRtegs-Nas,
ト 一 = 商議シテ 近キ 親ミシ故 =

Ken-Iañ-gi-Lo
景 龍ノ 年

(28) / Kim-Tsheii (?)-kwaii Log-Dah-pu
Shai-Shu Bog-Ye-pa Yod-pa Han-
Kahu.

(29) 金 銀 尙 僕 韓
○ 太 書 射 阜
光 夫 ○ ○

(30)

(31) / Jon-h-Gi Lan-Gu Ci-Cun Cin-
hGahu Sin-Hu

(32) 正 郎 史 丞 僧
議 (御) 中 (牛) (孺)

(33) / Cuii Dah-pu Khem.....Shai-Cu
Tsa Bog-Ye Shai-Culu Bai.....
Yod-pa.....Li

(34) 中 尙 僕 (順) ○

聖德太子

(28)Koi-Co bTsam-pohi Khab-du Bla-nas,
(金城) 公 主ヲ 贊 習ノ 宮殿 = 迎へ カバ
dBon-Shan-du
甥 舅 =

(29) Gyur-ste dKyes-pa-las, Bar-h-Gah Phan-Tsun-gyi
威リテ 喜 中 中間ハ 或 相 互ノ
Sohi Blon-pos
邊解ノ 臣 = 由テ

(30) gNod-pa-Dag Rdul-Byas Kyaii, gNen-bahi Chab.
迫 害 等 排斥セラレシト 雖 近親 ノ 交リテ
Gai-du Bya-ba,
何處ニ於テモセラレ

(31) Thugs-Chen-po hDi-Dreg-gi-Che, dMag-Ston-kyis
心 大 コノ 僞 慢ノ 大ハ 兵 千 = 由テ
Phan-Thogs-par Byas-pa-Dai
圖 總 フ セラレ而シテ

(32) Phan-Tshun-gyis Nois-Byun-No Chog-na dGges-
相 互 = 依テ 過失カ 生ジテ 破壞ストモ 害トヲ
Snai-Dag Kyaii mChod-par bSis-te,
現 ハシ 尙 敬 フ 保 テ

(33) hDi-I-tar Ne-Siin gNen-ba Yin-na, dPon-Shai-gi
是ノ 如ク 慈 愛 = 親シムコト 有ラベ 甥 舅ノ
Tshul Kho-na-I-tar Thugs
常習 只 如ク 心(誓)

(34) kyī Dem Phabs-Pa-las, bTsan-po Yab Lha-hPhrul
ノ 約ヲ 降セシ ヨリ 贊 普 父 神 化 現

大 書 射 ○ ○

(35) 夫 左 ○ 尙 ○

Khri-Lde Sroñ bTsan-gyi
藥 德 蘇隆 贊

(35) Shar-sia-nas, Sgam-dK'yei Chen-pos-ni Chos-Srid
稽告=由テ 區 域 = 大 依テハ 法 國=

Ci-la Yai mKhas-Shin.
如何ナル於テモ又 敬ヒ ヅ、

(36) / Kim-Tshen-Kwan Log-Dahi-Pu
Ho-Bo shau-Shu-Bas Yod-pa Yai-

Yu-Lin /

(37) 金 祿 戶 書 於

○ 大 部 ○ 陵

(36) Byams-pahi bKaḥ-Drin-gyis-ni, Phi-Nan Myed-par
慈 愛 ノ 恩 慈 ヲ以テハ 外 内 無シ =
Phyog-bKgyad-du Khyab-Ste,
方 ハ ヲ 掩 ヒテ

(37) mñah-bShi Rgyal-po kun Dai Yai mjal-Cin
版 圖 四(方) 王 一 切 ト 又 會 舍 シテ

hDum-bar mDsad-na,
平和 ヲ 作 ヲ バ

(38) 光 夫 尙 揚

(38) Rgya Dai Lha-Shig gNen-bRtsegs, Yul-Khim
支 那 ト 神 トハ 近 親 シ 國 家

Ches Yin-bas, Lhas-pa Chab-Srid
大=依テアルガ故= 餘 ノ 社 稷ハ

(39) / Thoi-Gyi Dahi-pu Lhi-Bs Shai-
Cu Yod-pa Wñi-Shiñu /

(39) gCig-du dKyes-te, Phan Tshun dBon-Shon dGoi-s-
同(盟)ヲ 喜 ヒテ 相 互 甥 舅ハ 考ヘ

pa mThun-nas, Rgya-Rje
ヲ 同クシテ 支那 君

(40) 通 大 禮 尙 (韋)

議 夫 部 書 (綬)

(40) Shei-Can(gin?) Bün-Bü Hwañ-te mjal-Dum-du
聖 神 交 武 皇 帝 ト 會 盟 ヲ

Mal-te, bKaḥ-Khon Rñin-pa-ni
商義シテ 語 怨恨 古キ ヲ

(41)

(41) Shyais-Cin bZal-ba, bGyes-pa gSal-ni bSlabs-Cin
消 シ 除 キ 歡 喜 新ヲシキヲ 學ビ テ

bStud-nas
綴綴スガ故ニ

(42) / Kin-Tsen Kwan-Log Dahi-Pu

(42) Des-na, bTsan po dBon-ni Sku-Tshe-gCig,
此ノ故ニ 贊 普 男 ハ 身 壽 一(代)

kem-kel Bog-Ya kyam Thahi Gan

Rgya-Rje Shan-ni Dun-Rabs
支那 君 男 ハ 系 統

Ken-Cin Tsou-Shu /

(43) 金 大 ○ 太 宗

(43) gSum-gyi-bar-du, bKaḥ-bKlon-gyi dDugs-ni
三(代) 間 ヲテ 語 怨恨 ノ 害 恐 ラ

○ 夫 僕 ○ 孺

ma-Byun, dGyes-pahi Sri-Shu-ni
ズ 起コサ 喜ビ ノ 敬 敬 ラ

(44) (光) 衍 射 卿

(44) Phan-na phiyad-de, Pho-Ńa gCes-pa-las bKaḥ-Phrin
互 ニ 垂レ 使 節ヲ 愛スルニヨリ 勸 言 ト

(祿) 書 ○ 趙

Snan-pa Dan dKor-Nor,
愉 快 ト 富 ト

(45)

(45) bZaṅ-pos-ni Rgyun-du hDul-na, mJal-Dum-gyi
善 トヲ以テハ 絶ヘズニ 制セバ 會 盟 ノ

Mol-Chen-po gCigs
商議ヲ 大 同

(46) /Dahi-pu Riji-Bu Gan-Cu...

(46) bCas-ba Ita-bu Yai ma-Gyur / / dBon-Shan
共 ノ 如 ク 又 ズ 變ビ 男 男

.....Ńa-ba / / Bül-Bu /

Moi-bahi Rdes-Kyai Tshan Ma-Phyed-par
商 議ノ 後モ 尙 全ク ズ 變 ゼ

(47) 太 夫 衍 (司) (裴)

(47) Ced-gDu Kyai Thugs-Non-s-kyis eRtsal-te, Bar-gyi
結 合シ 又 心 通 ハ 防止シ 中間 ノ

中 禮 書 (農)

(48) 大 部 武

(49) / Zoi-h-Gi Dahi-pu Shihu Kei
Cehu Yui-kyam.....Phu Thabs Yod-
pa.....Koi- /

(50) 正 夫 ○ 大 (柳)
議 京 ○ ○ (公)

(51) 大 (兆) 御 夫 (結)

(52) / hGin-Chen kwan-Log Dahi-Pu
Koi-Bo.....kwag Hun Dahi Tsai
kyun-gyi.....

(53) 金 大 ○ 金 將
青 夫 ○
光 工 ○ 吾 軍

gCuy's Rñin-ba Phran-Tshegs-kyi
縫レト 古 キ 小 難

(48) Dogs-Phrag-gis, Legs-pa Chen-pahi Sku-Don,
怖 嫌ヲ以テハ 善 大 ノ 身 義

Phyi-ltigs Ced-du-Gyur-Nas,
外 傷害ハ 強 ク 轉ジテ

(49) dGra-Chos-kyi Thabs Dai, dMag-bTsai-po-Dag
敵 法 ノ 手段 ト 兵 強 第ハ

kyai Myi-mjal-Dum
又 不可 會 盟

(50) Ruñ-Sic, dDra-Zun-gyi Tshut-du-Gyur dKyes-
適シテ 敵ヲ捕ルコトノ 律 トナリテ 善ベト
Kyai, Yoi ñe-Sin gñen-la /
尙 來リ 近ヅキ 親シム故ニ

(51) hPhrul-gyi Lha-bTsai-po Khir-gTsug Lde-bTsai-
化 現 ノ 神 贊 普 義 筑 德 贊

gyi Shai-Sñi-nas,
ノ 立 會ニ由テ

(52) mkhyen-pa-ni hPhrul-gyi Tshut-Chags mDsad-
護 者 ハ 化現 ノ 方法ヲ 望ミ 作ス
pa-ni Lhañ-Lugs-Dai mTun-te
コトハ 神ノ 掟 ト 相應シテ

(53) bKaḥ-Dzin Chen-pos, Phyi Nai gñis-su Sñoms-
愚 慧ヲ 大 以テ 外 内 二 ヲ 平等ニ
gñi, bBu-Rmog bTsai, dKaḥ
シテ 頭 兜 強 助

(54) 祿 部 ○ 衙 部

大 (鑑)

(55) /.....bKya-Ha.....

○ 夫 ○ 劉

(56) 大 ○ ○ ○

○ ○ 衙 ○

(57)

(58) /.....kvan.....Lan-Çu.....

Drun-Çin kig.....Yod-pa pahu-Çun.

(59) 中 ○ 丞 ○ 大 ○

○ ○ ○ ○ ○

(60) ○ 大 ○ ○ ○

(54) Luñ-g'Nante / Rgya-Rje Bün-Bü He-Çu-Tig
命ヲ 聞キテ 支那 君 交 武 孝ノ 德

Hwan-te Dai dBon-Shan g'Nis,
皇 帝 ト 甥 舅 三(主)

(55) hPhrul-gyi dGois-bani mThun /Chab-Srid-
化 現 ノ 所 思 ハ 同一ナリ 社 稷

ni gCig-Ste,
ハ 同(盟)シテ

(56) Bod-Rgya g'Nis, dBus Phyr-Sar bSkyañ-bahi
蕃 支那 二(國)ハ 中 外ノ 地ヲ 守ル コトノ

mjal-Dum Chen-po mDsad-Nas /
會 盟ヲ 大 作リテ

(57) Rgya-Yul Dai, Keñ-Çaiñ-Nub(Çar東?)-Phyogs-
支那 國 ト 金 沙ノ 西 方

Çig-Sañ-Siñi Druñ-Du, Bod-Chen
四 西(省)ノ 邊リマデ 蕃 大

(58) poñi Lohi Myiñ-ni Süñ Stag-Lo-Dun // Rgya-
ノ 歲ノ 名ハ 舊 寅 年 七 支那

Chen-poñi Lohi Myiñ-ni,
大 ノ 歲ノ 名ハ

(59) Caiñ-Keñ Lc-Dai-po Lcags-Mo Glaiñ-gi Lohi
長 慶 年 初 辛 女 丑ノ 年ノ

dGun Sral-ba Ches-bCu-La /
冬 後ヲ 日 十ニ於テ

(60) kyi Yi-Ge(?) Bod-la-lhags-nas.....gCigs bZuñ-
ノ 蕃 = 定メテ 同(盟)ヲ 持チ-

(61)

(62) ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○

(63) ○ ○

(64)

(95) / Jen.....

(69)

○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○

Ste, Bod
テ 蕃

(61) Yul-du-ni Pho-Bran Lha-Saḥi Ćar (Nub西?)-phyogs
國 = 於テハ 宮 殿 拉 薩ノ 東 方

Sva-Stan Tshul-du /
スヅ タ ヲ 牒 ヲ

(62) Bod-Chen-poḥi Loḥi Myin-ni (Chu-po?)-Stag
蕃 大 ノ 歲ノ 名 ハ 王 貨

Lo-b-Rgyad, Rgya-Chen-poḥi Loḥi-
年 ハ 支那 大 ノ 歲ノ

(63) Myin Can-Keñ Lo-g-Nis, Chu-po Stag-gi Loḥi
名ハ 長 陵 年 ニ 王 貨ノ 年ノ

dByar Sla-hBrin-po Tsher-Drug-La
夏 後 中 日 天 =

(64) bkylil-hKor-la hDi Bris-ni / Bod-kyis gCigs...
曼 陀 羅 = 是ヲ 書クコトハ 蕃 = 由テ 同(盟)ヲ

bZun-nio | gCigs-kyi
持ス ナリ 同(盟)ノ

(65) mDo Rdo-Riñs-la Bris-ba hDi Yan, Bod Chen-
薩 議ヲ 碑 = 書クコトハ 是 又 大

poḥi Loḥi Myin-ni Stag
ノ 歲ノ 名 ハ 貨

(66)bGu, Rgya Chen-poḥi Loḥi Myin Can-Keñ
九 支那 大 ノ 歲ノ 名ハ 長 陵

Lo-g-Sum, Chu-mo
年 三 王

(67) 卯 ○ ○ ○

(67) Yos-du Lohi.....Sla-hBrin-po Tshes-bCu-bShi-
卯 年ノ 後 中 日 十 四

la Rdo-Rins-la
= 碑

(68)

(69) Bris-So / / (Rdo-Rins-la?) hBri-bahi Sbyar(?)
書ケリ 碑 = 書クコトノ 準備

Yan / Rgyahi.....Thabs,
又 支那ノ 方法

(69)

(69).....(mjal?)-Dum. no Tseli Dan, dBus-gTsan
會 盟 時 ト 衛 藏

Gar De.....
東 彼ノ

(70)

(70) Yod-pa.....gSal-Byas-So / / gCi-gi khims
ヲ リ 明カ=セラレタリ 同(盟)ノ 規約ヲ

Rdo-Rins-la Bris-so / /
碑 = 書ケリ

(終)

(大正五年四月譯了, 寺本婉雅記)

(四) 唐蕃會盟碑文 (正面和譯)

蕃^{ボツド}の大王、化現の神、贊普^{ツァンボ}(強者^{の義})と、支那の大王、支那の君主、皇帝との甥舅二(主)は、社稷の

唐蕃會盟碑文

同(盟)を願ひ、大會盟を作りて共同し、復再び決して變易せざらしめ、神人の一切は(俱に證知し)代々に於て禰讚せられ、この商議を碑(に題すなり)(以上碑文第一行)。

化現の神、^{ツァンボ}贊普、^{チゲイツァン}棄德贊の……………文武孝德……………舅二(主)……………は……………の如何なる善惡も……………

…大慈悲に由り、親切を以て掩ふは内外(の隔り)なき故に、多くのものを全て安泰にせらるゝに於て所思を一にし、永久に善の大義は命令と相應し、同盟を商量するの願は、名……………大……………喜びの社稷を建設すべく、談合に由て會盟を大支那(と共に)作したり(以上第二行)。

今、蕃(Bon)と支那との二(國)は、誰も所有の國と境とを守り、その東方の一切は大支那の國。

西方の一切は大蕃の國にして、その地を相互に敵として諍はず、兵を導かず、國を侵略せず、意に不信のこと有るも捕へず、語を訊して放(還)し、後ち給興すべし。今社稷を同(盟)して、是の如く大會盟を作すに由り、甥舅の喜べき此の命令を聞き、尙調整を要して相互の使節派遣も、亦遠路に發す、(そは)従前の慣習に準ずべし(以上第三行)。

^{テツ}蕃と支那との二(國)の間に於て、將軍の下とに於ける馬匹の交換は「綏戒」の柵^(所)に於てし、支

那と接する以下は支那によつて供給せられ、清水縣に於て蕃と接する以上は、蕃に依て供給せられ甥舅は近づき親しむこの方法に従ひ、注意と尊敎の慣習あらしむべく締結し、二國の間には煙塵を揚げず、不意に於ける出來事と寇との名をも聞かしめず、國境を守らむが爲に、また驚恐と、怖

畏となからしめ、路地の防備を撤して(以上第四行)。

安穩に轉じつゝ、幸福の恵みは能く萬代に至るまで生じ、輝きの名聲は日月に達して遍く掩はれ蕃は蕃國に於て幸福に、支那は支那國に於て幸福たるべく、大國と締結して同(盟)を共にす。其の間は確定して變せず、又三寶と諸聖と、日月と星辰との力を請ひ、尙最上の種々の方法を以て啓し又牲を殺して誓約を執りて同盟を共にす(以上第五行)。

この同盟に従ひて誓約し、或は破壊せば、蕃と支那との二(國)は、何れに由るも以前の罪に由て苦しみ、屢々如何なる謀計を爲さるゝも、尙一度破らば、(そは)除かるべし。是の如く蕃と支那との二(國)の君臣に依て稽告の神聖なる誓約を執り、同(盟)の交を精細に記して二(君)の(驗證)は印璽を捺し、同盟(支)持に關係せる諸臣は、手字を署して(誓)文を建て、敬禮して鐫刻せり。

(以上第六行)(終)

(五) 唐蕃會盟碑文 (右側和譯)

化現の神、贊普棄筑德贊^{チーツクデツァン}と支那の君主、文武孝德皇帝との二(主)は、社稷の同(盟)を商議して會盟を作すことの……………二(主)の方法は如何なる態度を以て會盟を作せしかの……………碑に記せり。

化現(の神)贊普は「^{寶庫の扉の義、}デー・プ・ル」(Lde-Spur, ^{古代西藏の國名})の王地に起り、……………又蕃 (Bod) の大王

となれり。二(國)……のは、衛^{シイ}(dBus, 前藏の州名)の大河の源頭、高地の國は、上樂神^{イカム}が人王に化現して、伽藍……國を建設し、善き律法を以て……恩恵を以て内法を一般に宣布し……征服して社稷は大國……變せず。……「エンチュン」(gYun-Drun, 舊唐書云羊同、西藏國西、南地、俗稱インドウ)の大王……

…此の故に南方の(境)印度と、南方……北方の附近に勢(力)を堆積し、エンチュン王デマ……クンは、化現の神、贊普^{ツァンポ}……贊普と……敬せざるなく、相互に喜びて令法を聞くなり。東方に支那あり、大海に……東方の王にして南に至る他(國)を猜忌せず、善法と知識を造れば、又蕃^{ボツド}(國)も戦を退く……初め支那の君主の王地に(兵)を入れしより、かの唐(Tai)の領土を三度王の統一の下に(置き)、化現の神、蘇隆贊幹普^{スロンツァンガンポ}と支那君主、太宗文武神(Cen)皇帝との二(主)は同(盟)を商議して、貞觀の(十五年)年に、文成公主を王の宮殿に迎へ、後ち化現の神、贊普棄德贊^{ツァンポチデツァン}と、支那の君主は思慮して開元(二十一年)に聖文神武皇帝(玄宗)と同(盟)を商議し、近づき親しみし故に、景龍の(二年)に(金城)公主を贊普の宮殿に迎へしかば、甥舅と成りて喜べり。或中間に於て相互の邊僻の臣に依りて迫害され、排斥せられしと雖も、何處にても近親の交りをせられたり。その大心と大懦弱に(依りて)千兵に圍まれ、相互に過失を生じて破壊せしも、尙喜びを現はし、敬(心)を保てり。是の如く慈愛に親しみ、只甥舅の常習の如く心約を降せしに由て、贊普、父神、化現の棄德蘇隆^{チデスロン}贊^{ツァン}の稽告に依り、又大區域に於て如何なる佛教國に於ても、敬ひつゝ、慈愛の恩恵を以て内外(表

裏）なしに、八方を掩ひ、又四方の版圖の諸王と會合して平和を作らば、支那と神とは親しみ、大國家なるが故に、餘の社稷は同（盟）を喜びて相互の甥舅は所思を同じくし、支那の君主、聖神文武皇帝と會盟を商議し、古き怨恨の語を消失し、除去し、新らしき歡喜を學びて繰返すべし。

この故に甥の贊普は身壽一代、舅の支那君主は三代に至るまで怨恨の語を起さず、喜びと尊敬とを互に垂れ、使節を愛（撫）し、勸言と愉悅と富と善を以て絶えず制せば、又會盟の大商議を共同して變易せず、甥舅の商議の後ちも尙全て變せず、又強固に結合し、心過を防止し、中間の古き縫障と小難の怖嫉とを以て大善の義身を（變じ）、外の傷害は強固となり、又法敵の手段と強兵等（に依て）會盟は（結ぶ）べからず、（却て）敵を捕ふる律（法）となりて喜ぶと雖も、尙近き來りて親しむ。

故に化現の贊普^{ツァンポ}、棄筑德贊^{チーツクテツァン}の稽告によりて識者は化現（贊普）の方法を望み、神の掟と相應し大恩惠を以て内外二（國）を平等にし、強き頭兜の勅命を聞き、支那の君主、文武孝德皇帝の甥舅二（主）、化現の所思は同一なり。……社稷は同盟して、蕃、支那二（國）は中外の地を守ることに大會盟を作り、支那國と金沙（江）の西方、山西（省）の邊りまで、大蕃の歲の名は舊寅七年、大支那の歲の名は長慶初年辛丑歲後冬十日に於て……の文（？）を蕃に定め、同盟を支持し、蕃國に於ては拉薩宮殿の東方スブタン林まで、大蕃の歲の名は壬寅八年、大支那の歲の名は、長慶二年壬寅の年の後夏中旬六日に於て、曼陀羅^{（登）}を茲に書き、蕃は同盟を支持す。

同盟の商議を碑に書くことは、又是れ大蕃の歲の名は寅……九(年)、大支那の歲の名は、長慶三年壬卯……年……後……中旬十四日に於て碑に書けり。

又碑に書く準備は、支那の……方法……會盟……とかの衛藏^{ウイチン}の東にあり……明かにせられたり。同盟の規約を碑に書けり」(終)。(大正五年七月譯了、寺本婉雅識)

(六) 唐蕃會盟碑文^(正面漢文)

(第一行) 大唐文武孝德皇帝 ○○○○○○舅甥二主商議社稷如一、結立大和盟、約永無渝替、神

人俱以證知、世世代々使其稱讚、是以盟文節目題之於柱^①也。

(第二行) 文武孝德皇帝、與○○○○○○○○○○二聖舅甥渙^②鴻被曉、今永之屯享^③於愍之情、恩

覆其無内外、商議叶同務、令萬姓安泰、所思如一成久遠大善再續、慈親之情重、申隣好之義爲此大和矣。今

(第三行) 蕃漢二國附(守)○○○○○○○○○蕃漢已西盡是大蕃境土、彼此不爲寇敵、不舉兵革、不

相侵謀封境、或有猜阻捉生、問事訖給以衣糧放歸。今社稷叶同如一、爲此大和。然 舅

甥相好之義、善理

(第四行) 每須通傳、彼此○○○○○○○○○蕃漢受^④於將軍谷交馬其綏戎柵、已東大唐祗應清水懸、已

西大蕃供應須合。

舅甥親近之禮使、其兩界煙塵不揚、罔聞寇盜之名、復無驚恐之患、

行人⁽³⁾撤備鄉土俱

(第五行)

安、如斯樂業之○○○○○○○○於日月所照矣。蕃於蕃國受安、漢亦漢國受樂。茲乃合其大業耳。依此盟誓永久不得移易。然三寶及諸賢聖、日月星辰、請爲知證。如此盟約、各自契、陳刑牲爲盟、沒此大

(第六行)

約儻不依此誓、蕃漢○○○○○○○○也。仍須儻○及爲陰謀者、不在盟之限。蕃漢君臣並稽告立誓固細爲文。⁽⁴⁾二君之合證以雍印登壇之臣、親署姓名、互執如斯誓文、載於王府焉。

(註)

(1)碑(湖南氏訂銘)。(2)並。(3)封。(4)驗。(5)官。

(七)

唐蕃會盟碑文宰相名

(正面漢文)

(第四行)

大蕃宰相等和好登壇立明官寮名位。

(第七行)

大蕃宰相同平章事名位。

(第十行)

○○○平章事○○○。

○○○相同○○○。

(第十二行)

○○○章事○○○。

○○○副元

唐蕃會盟碑文

- (6) 大唐宰相○○○○○
- (9) 正議○書○○○○○○○○
- (13) 中○○夫中書○○○侍郎同○○○○
- (14)(16) 太中大夫中書侍郎同○○○○○○○○
- (19) 中太夫書戶部侍郎同○章
- (22) 正議太夫兵部尙書蕭(俛)
- (29) 金○光銀太夫尙書右僕射○韓阜
- (32) 正議郎(御)央中丞(生)僧(孺)。
- (34) 中大夫尙書左僕射○峽○尙○○○
- (37) 金紫光祿大夫戶部尙書○揚於陵。
- (40) 通議大夫禮部尙書(韋)(綬)。
- (43) (金)○大夫○僕太○宗孺
- (44) (光祿射○卿趙。
- (47) 太中大夫禮部尙書○同(震○斐)○武
- (50) 正議大夫京兆○○○御大○夫柳公綽。

(53) 金青光祿大夫工部○○○○金吾衛大將軍郭(鑑)○

(56) 大○夫○○○○衛劉○○

(39) 中○○○○大亟○○○○大○○○○。

(註) (1)左。(2)朝。(3)右。(4)紫。(5)榮。

(九) 唐蕃會盟碑文の字母法

西藏開國の英主棄德薩隆贊(Khri-Ido Sroñ bTsan)は西紀六一七年に生れ、唐貞觀二年(A. D. 629)に彼は十三歳にして即位し、長じて武威を振ひ、國內の諸羗族を統制し、外は遠く西域地方より大唐長安府に及び、貞觀八年(A. D. 634)に唐太宗と會盟を結び、貞觀十五年(A. D. 641)に宗女文成公主を迎へ、茲に建國の基礎を開いた。

當時西藏は未だ一定の國字を有せず、僅かにシャンシエン語(Shai-Shui)の、大食語(Stag-gZig)等の文字を借りて政治の用を達してゐたが、民族思想啓發に甚だ不便を感じ、大臣トンミ・サムブホタ(Thon-Mi Sambhoja)等十六人を印度に留學せしめた。トンミ・サムブホタは婆羅族のリーチン(Li-Byin)より文字を、班抵達ハリック・センゲ(Lha-Ligs Sengge; 天族のセンゲ)より聲韻學を學び、還藏して梵語の蘭查體に基いて西藏の有韻文字即ち楷書體の子音三十と、母音四字とを創

案し、迦濕彌羅國のヴルトゥ族の使用せしヴルトゥ字體 (War-Tu; Vartu) 即ち悉曇文字に基いて無頭文字の行書、草書の二體文字を創出したのである。ヴルトゥ族は迦濕彌羅國のラダック地 (Ladaks; 今のネー地) のカルギル村と、フンサ村(コン村の東方)以東に位する山澗住民である。日本の悉曇文字は即ちこのヴルトゥ族文字である。今も尙西藏の學者間に西藏文字と併用せられてゐる。日本の悉曇文字とは語原 Siddhi 即ち「成就」の義によつての名稱にして、眞言密教に使用する呪文の各頭文字の一字に神祕的義を含有するものとし、此の神祕的各字母を念ずるとき、一切の義利を成就すと云ふ一種の表徴文字として信仰せらるゝ密教的梵字であるがゆへに、是を悉曇即ち「成就」の文字と名けられてゐるので、文字其者の名稱ではない。各一字毎に祕義を含有し、唵呪によつて人の願意を成就するとの義譯である。この悉曇文字は迦濕彌羅國のヴルトゥ族の文字であつたことは、今此の西藏文字創案と共に西藏國に傳へられてゐることを發見したことである。

大臣トシミ・サムブホタが還藏後、西藏文字を創案して、八部の書を著はしたと云ふことである (dPag-hSan-Ljon-bZan. p. 167) が、現に残つてゐるものは僅かに「三十字母」(gSum-bCu-pa) と「性の添接法」(Rtags-Kgi-h)us-pa)のみである。これ等の文法に依つて當時の西藏語法を窺知せらるゝのみで、その他の言語學上の變遷と法則等は知る由もない。只古典や、古代記錄の斷翰によつて言葉の韻音上の變遷や、俗語又は他國語の混入等を剝別するに過ぎない。韻音にしても時代と場

處さては西藏人種中の異種族とに由て相違する。現に拉薩や、札什倫布市^{チヤンレンブ}地方では概ねその發音は硬音を主とし、合成詞なりに發音せらるも、その他の地方、喀木地^{カムヂ}、德格地^{テグヂ}、安土地等に於ては東北方の西藏の方言として、地勢と季候等の加減により、漸次硬音より軟音に、軟音より濁音に移り易つてゐる。これは西藏文字創定の當時より各地方と人種との相異に依て然るものなるや否は確かと判別することは出来ない。

現存の西藏文法に規定せられたる語法組織上の規定と昔日のそれとは多少異同の存せしものなるや否を明確に知る由もないが、今茲に譯出せる唐蕃會盟碑文に散見する左の十六種の文字は、母音の伊字(一)は普通の添接法と異つて左向反對に附加されてゐる。この種の母音添接法は西域中央亞細亞地方、于闐、龜茲、燉煌地方より發掘せられたる西藏古文書等に散見せらるものと同様である。かの「漢蕃對音千字文殘卷」(ペリオ氏羽田博士共編燉煌遺書)中にもその例を見るのであるが、何故に普通文法の添接法と相違するかの意味に至つては未だ不明である。使用文字としては別に何等の差別的意義の存することを見ないのである。それらの種類は名詞、接續詞、否定副詞、關係代名詞及び屬格に過ぎない。就中屬格は尤も多く使用せられてゐる。尙名詞と否定副詞とは普通のと異つて、語根に添足詞を添接したる合成詞に反對向の母音伊(一)を添接してゐる。普通の否定副詞は *mi* であり、同じく人を意味する名詞も *mi* なるに拘はらず、此の唐蕃會盟碑文では否定詞は *mi* である。

とあり、同じく人なる意味の名詞も *Myi* とあつて、その母音の伊字は何れも左向反對のものを添接してゐる。何故に語根 *My* の添足詞に *y* を添接したのであるか、或は語根 *My* と添足詞の *y* とは合成詞に發音せずして、別個の長音 *Myi* (ミー) と發音するとも思はれない。又梵語の短母音伊字の模倣であるとも思はれない。かくて左向反對の母音の有無に由て何等字義に特別の條件を招來せないとするれば、果して何等の規定或は語法に據つたものであるかは全然不明である。

この種の母音用法は特に唐代の藏文にのみ限るやうで、その後代の古文書には未だ見當らないより見れば、この種の使用文字は唐代の俗語ではなからうかとも思はれる。後ちの研究に俟つこととする。

左の各字の母音伊 (i) は左向反對を示す。

// *Kyi* (ノ), *Ggi* (ノ), *Hi* (ノ) ; *Myi* (人, 不), *Myi* (名) ;
Khui (椅子, 玉座), *gCig* (一), *Srid* (領土, 有), *Sdig* (罪) ;
Ci (何レ, 何ニ), *Cih* (ツ、), *Cih* (ツ、), *Ni* (ハ, ヲ). //

唐蕃會盟碑文 (終)